（別紙4）　　平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3373200157		
法人名	社会福祉法人　高梁市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームささゆり苑		
所在地	岡山県高梁市成羽町長地453－5		
自己評価作成日	平成24年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3373200157&SCD=320&PCD=33

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13－1　県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成24年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

～ゆったりとした空間でおだやかに暮らす～と云う理念を目標に、各利用者の意向を尊重しながら支援する事に務めています。
平成12年の介護保険制度施行と同時に開設された施設です。グループホームという小規模で各利用者、個々に対応するような支援の方法に取り組む施設の少なかった中、地域の方の協力を得ながら、運営を行ってきました。
定期的な小学校との交流や地区の団体によるボランティアのお餅つきを始め、季節のお野菜を差し入れて頂いたり、苑周辺の草刈り作業まで協力を頂いています。また、近くの神社のお祭りや小学校の運動会には利用者様、職員共に参加し、楽しませて頂いています。
援助計画に関しては、月1回（4時間程度）のミーティングを行い職員全員で各利用者様の状況把握や意向確認を行い、ケアプランに反映させています。同時に、職員間の研修、相談も同時に行い、サービスの質の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者と職員で貼り絵の大作を作って、子供の作る作品から大人のつくるクラフト（工芸品）に位置付けたグループホームだと私自身が自負している。それは今でも残っているが、利用者の高齢化や重度化によって大作は望めなく、小さい作品が群れとなってホーム全体がギャラリーとなっている。今年のお正月には3体の2～3m大の龍が天井の梁に舞っていた。立体的に造形した龍の頭と胴体はリアルに造形されて見事だった。利用者は職員と一緒にこのホームで笑顔一杯元気に暮らして毎日昼前と夕方に皆ホールに集まって体操をしたり、歌を唄い、ボール遊びをして笑顔や大声で楽しく過している。今日は山の上の小学校がこの3月で廃校となり、小学校の7人の生徒と3人の先生が訪れ、最後のお別れ会をした。ゲームや歌を唄って楽しい一時であったが、このホームも中学校の廃校の跡地に造られ、皮肉にも小学校までの去ってしまった。このホームの住人の笑顔と元気が天まで届けと願った。

V．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	母体が社会福祉協議会であり、地域の方が安心して暮らせる街づくりのため努力している。 苑内では入居者の方の笑顔を目標に、日々支援を行っている。	毎月の職員ミーティングで理念を確認して職員間で話し合い、月目標を掲げてよりよい支援に努めている。何となく忙しくセカセカした感じになる時等も、理念に立ち返って日々のケアに反映するよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初より地域の方の支援や交流をして頂いている。小学生の奉仕作業、地区住民の草刈、御餅つきのボランティア、野菜の差し入れ等々。また、入居者も、地区の新年会や小学校の運動会に参加させていただいている。	母体が社会福祉協議会という事もあり、ホームは地域に受け入れられており、活発に地域交流できている。今年度は更に、地元の元気なお年寄りのデイサービス（いきいき交流館）のメンバーが何回にも分けて大勢見学に来る等、進展もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護者教室の見学場所として受け入れをしている。また、苑だよりを発行し、入居者の笑顔を紹介している。近隣の方の介護の相談を受け、各種専門職、担当機関への連絡調整をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を実施。家族や利用者も参加し、現況報告を行い、要望を聞いている。欠席者の家族には報告書を送付。苑の玄関にも閲覧ファイルを置いている。運営やサービス提供の詳細等、意見を伺えている。	定期的に運営推進会議を開催し、出席者が声をかけてくれて、地域ボランティアがホームの草刈りや木の伐採をしてくれたり、家族会の立ち上げについての提案が出る等、会議開催効果も上がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず市職員の出席を頂いており、普段でも電話等で相談に乗ってもらっている。管理者が、毎月1回包括支援センター、ケアマネが集まる成羽地域ケア会議に参加し、地区の現状把握、意見交換をおこなっている。	市町村は管轄内の事業所をブロック分けして全ての事業所の運営推進会議に出席できる様調整し、運営推進会議をしていない事業所に対しては開催を呼びかけて、実情を把握し協力体制を構築しようとよく努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在のところ、拘束を必要とする入居者は居られないが、事務室のマニュアルのファイルに常時備えてる。 また、ミーティングで研修を行い、職員間で何が拘束に当たるか、虐待に当たらないか、常に話し合っている。	市内で徘徊行方不明者があった事から、運営推進会議でホームの施錠について質問があり、家族からも玄関だけは施錠して欲しいとの要望が出て、ホームの現状を説明した。情報をオープンにして皆で相談する体制ができている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティングで研修を行い、特に言葉での虐待について、職員間でお互いを注意している。また、行政の開催する研修には代表で参加が出来るようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体の社協より権利擁護に関しての情報を得ている。昨年度は、権利擁護の制度を利用されている入居者が1名居られ、毎月、生活支援員の訪問を受けていたので、職員も理解ができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書の内容を説明、理解と納得を得ている。 改定の際は、家族の面会時に直接説明、面会の困難なご家族には電話で連絡を行っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来るご家族は多く、機会があるごとに要望を聞く。具体的な返答が少ないが市の相談員訪問次行などを紹介し、意見が出やすいよう努力している。本人の意向も確認し、献立の希望などニーズの把握ができるよう努めている。	ホームは本人・家族が意見が云いやすいシステムの構築を目標達成計画に掲げて取り組んだ。運営推進会議での家族会設立の提案に対し、できるだけ多くの家族に出席して貰う為に、福祉センター利用の申し出がある等、大きく前進しつつある。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員ミーティングで話し合い、その意見や提案を皆で相談している。日常で不便に思ったり疑問に思うことは、そのつど職員から管理者への提言がある。	職員達はチームワークも良く、日頃から何かあればその都度よく話し合いができている。管理者は「医療職がいないのは不安なので、看護師体制を考えて欲しい」等、現場の声は出来る限り母体法人に伝える様努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個々の状況を把握するように努め、介護保険課長、成羽支所長に報告・相談している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格のないの職員や介護経験の少ない職員にはミーティング時の研修で疑問や不安を解消できるよう相談の場を設けている。必要に応じて外部の研修を受けることができるように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はケアマネ協会の部会に参加し、他の施設との情報交換に勤めている。他の施設への見学を行い、サービスの見直しをして質の向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人、家族に施設見学していただき安心して入居していただけるよう十分な相談に乗れるよう配慮している。またアセスメントでは、本人の現状・生活暦を考慮し、信頼関係を築けるようなプランの導入を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とご本人との関係、どのような思いをも抱いているのか、施設入居にあたっての要望などを聞いている。 担当ケアマネから情報収集をし客観的な判断を下すこともある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの情報を元に初回プランをたて、ご本人、家族の納得を頂く。入居時に職員には伝え、統一した支援が出来るようにしている。他のサービスの利用は導入していない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	若い職員が増え、孫のように、日常生活でわからないことを入居者に尋ねたり、教えてもらっている。 洗濯たたみ、食事の下ごしらえ、掃除、繕い物など、役割分担のある入居者も居られる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	消耗品購入や受診援助など家族と本人が顔を合わせる機会を設け、家族との繋がりを密にしている。日頃の様子も家族に伝え、生活状況を把握してもらうようにしている。行事への参加を、お誘いしているが対応してくださる家族は少ない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚、友人、知人等の訪問時は歓迎し、なるべく面会に来て頂きたいということをお願いしている。お墓参りや家族との外出や外泊も推奨している。入居者が住んでおられた地域の団体からの農産物提供など、交流を続けてもらっている。	職員・利用者共に近隣出身者がほとんどなので、互いに地元の話はよく通じる。公民館のカラオケ発表会に出場した利用者は、知人に昔からの屋号で声を掛けられる等、無理のない交流がよくできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に気を配り、把握するよう努め、気の合わない方の座席を工夫したり、トラブル時は間に入り仲を取り持っている。聴力の悪い方やコミュニケーションをとるのが難しい方には職員が間に入るようにしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際には写真や色紙・本人の作品等を渡している。 必要に応じて、可能なことは支援していくことを伝えている。退居後も家族と連絡り、機会があった時には、ご本人にも会いに行き状況把握している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に生活しながら、ご本人の希望や意向の把握に努めている。ご本人から直接言葉での意思表示が無い場合は、ご家族や在宅で関係のあった保健師さんやケアマネに相談し、可能な限りご本人本位の生活となるよう支援している。	「ちょっと話があるんで部屋に来て下さい」利用者は何かあれば、遠慮なく思った事を伝える。「あの人は今頃ちょっとおかしいんで、かなわんけえ席を替えて下せえ」と訴えたり、「じっとしとるのもあれじゃ、仕事があればなあ」から好きな野菜づくりを始めた等、記録でも確認した。	職員は入居者体験報告書やアクシデントリポート・ヒヤリハットの自己分析等に取り組み、利用者の心を知り、支援に活かそうとしていた。又、会話の重要性をよく認識し、その言葉から気持ちを汲み取ろうと努めていた。とてもよい事なので、今後も継続して欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、関係機関等からの話を聞いたりして、これまでの生活の把握が出来るよう努めている。昔話からも生活暦の見えることが多いので、普段の会話を大事にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別日誌に一日の過ごし方、心身状態、有する力等の記録を行っている。日常生活の様子を観察しいつもと違うと思ったら管理者に報告、職員間で相談するようにしている。特記事項は事業日誌や支援経過で情報共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回、職員全員参加のミーティング開催し、入居者の生活状況・身体状況における個別の課題を話し合い、本人・家族・医療機関と相談の上、介護計画を作成している。更新時や変化があったとき、なくても6ヶ月に1回モニタリングを行っている。	ホームは個別支援経過の記入方法の改善を目標達成計画に掲げ、利用者の会話を重要視した記述を心がけ、様式を工夫していた。職員も読むのが楽しみな、具体的で判り易い記録でとてもよい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌とは別に支援経過記録を作成し、確実に情報を共有しながら実践や介護計画の見直ができるよう取り組んでいる。支援経過への記入の仕方、着眼点を職員で統一できるよう話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いつも家族にお願いしている定期受診や買い物もご家族の都合で代行することもあるが柔軟にニーズに答えられているかどうかは疑問である。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流は活発に行っているが、個人の従来持っていた社会資源の把握は出来ていない部分が大きい。またそれを楽しむようには活用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は原則として家族に依頼しているので、入居前の主治医を変更されていない方が多い。緊急のときは協力病院である市立病院での対応、また受診が困難な入居者は月1回の往診をお願いできる医院もある。	家族にも本人の状態はよく把握しておいて欲しいと考え、定期受診は原則として家族が行っているが、その都度ホームからもそれぞれの病院に電話して情報の共有に努めている。現在週一回の看護師派遣を検討中である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職の職員が居らず、訪問看護の利用もしていない。相談は、かかりつけ医のいる病院の看護師か、市の保健師さんに行って、受診や対応に勤めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院された場合は付き添っていき情報提供をすることが多い。また、緊急時持ち出し票を作成し、スムーズに情報提供が出来るようにしている。入院中は状況把握に努め、退院時に医療連携シート（高梁板）より指示を頂くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営規程により要介護4の認定が降りた場合には退居になるため、終末期の対応が苑では難しいため、ご本人、ご家族のご意向を聞き、他施設への入所申し込みの検討を行っている。施設の紹介、空き情報の提供、見学のお勧め等をし相談に乗っている。	要介護3までの比較的軽度な人を主体として受け入れているので、今までのところは該当するケースがなく、ターミナル支援は行なっていないが、本人・家族の強い要望があり、医療的な問題もない場合は、看取りができる体制づくりを今後は検討していきたいと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変や事故時に適切に対応できるよう研修を行っている。 又、予想される急変や事故等を具体的に想定した対応マニュアルを作成し、常備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者を含めての消火避難訓練を年2回実施。消防計画を苑内に提示し対応できるように勤めている。緊急時自動通報装置の設置で、地域の方のご協力も頂いており、定期的に作動訓練もしている。スプリンクラーと火災通報装置も設置済み。	消防署の協力を得て、防災ビデオを見ながら指導を受け、利用者と職員は消火器の実習もした。元消防団員の利用者はいきいきと応じたそうだ。山の上に立地するホームなので、高潮や津波の心配はなく、主として火災を念頭に置いた訓練を実施している。	日本中どこで地震があるかもしれぬ現状なので、今後は地震対策も考慮した方がよさそうだ。運営推進会議の議題に掲げて、いざという時の対応を相談してみてはどうだろう。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	祖父、祖母と孫のような会話になっていることが多いがご本人の尊厳には気をつけている。“言葉の暴力”について研修を行い、職員同士で気をつけ、注意を促すようにしている。	「見て下さい。上手に編まれてるでしょ」部屋に飾った編み物を飾りを指さし「今着てるセーターも昔ご自分で編まれたんです」とほめる。実はマフラーを編むはずがうまくできず、失敗した物を部屋飾りに仕立てたそうだ。出来る事を上手にほめ、プライドに配慮した気くばりが優しい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のペースに合わせた支援に努めている。希望を伺って献立を決める等自己決定の尊重に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や水分補給等体調管理に不可欠なこと以外の過ごし方は、ご利用者の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の衣服をご家族や職員で準備し、選択はご本人にしていただいている。自分で選択出来ない方は、職員が気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはご本人の好きなもの提供し食事を楽しんでいただけるよう勤めている。外食を希望される方は職員が同行したり、家族にお願いする。片付けも下膳は手伝ってくださる方が多い。食べたい物の希望を聞きメニューに取り入れている。	たまに調子が悪い時はおかゆになる人がいる程度で、今は皆一緒に同じ食事ができている。ホームの畑で収穫したり、地元の人が差し入れてくれる新鮮な野菜たっぷりの献立はとても美味しく、食事は利用者の楽しみになっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量の記録を行い、適切な栄養摂取や水分確保が出来るよう努めている。又栄養士がいないため厳密なカロリー計算は出来ていないが、量の調節、嗜好食品の選択で糖尿病や高カリウム症の悪化予防に努めている。市の栄養士による栄養指導も職員が受けた。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、週3回の入れ歯洗浄等、口腔内の清潔保持に努めている。又、協力歯科医院への受診介助や必要に応じて、往診をして頂き、助言、治療等の支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	9人中7人が紙パンツをご利用ですが、トイレでの排泄に努めている。記録の振り返りで、排泄パターンを出来るだけ把握、パターンにあった声掛け、誘導を行い、失敗の少ないよう勤めている。	「あのう、洗濯物があるんじゃけど」パジャマの下と下着を出し、「ちょっと濡れた様になっとる」と言う人に「じゃあ、ついでに上も一緒に洗いましょう」明るく応じる様子を記録で確認した。さり気ない支援ができている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩和剤の服用者が多いのですが、チェック表で排便パターンの把握を行っている。予防として、適度な運動（下肢訓練・体操）を日課とし、水分摂取の声かけ、乳製品の摂取、繊維野菜の使用、医療機関との相談等行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿った入浴はできていないが、入浴の順番やお湯の温度にはご本人の意向に沿えるよう努めている。声かけで拒否があったり時間が早いと言う方には少し時間をずらして再度声かけするなどしている。	ほとんどの利用者は入浴好きで問題はないが、入浴拒否の場合も無理強いせずにうまく声をかけて、出来る限り週3回は入浴して貰う様誘っている。入浴タイムはマンツーマンのコミュニケーションの時と考え、大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクや体操にお誘いするが、原則、無理に誘わず、希望を伺い、休息したい時は休んで頂いている。夜間も就寝時間（9時）はあるが、その日の体調や気分により決まってはいない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬ファイルの作成を行い、目的や副作用、用法、用量の把握を行っている。ご本人に変化があった場合は服薬の確認を行い、医師や薬剤師と相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合った役割分担を行い、張り合いのある生活となるよう支援している。好みのお菓子の購入、外出支援、生け花、塗り絵等の気分転換ができるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望される方が少なくなっているが、時候のよいときには戸外の散歩、ピクニックを実施している。個別には、買い物の支援や自宅への帰宅などにも対応している。	山の上の立地条件だが、花見等季節の行楽だけでなく、あちこちへドライブにも出かけている。高齢化に伴い、出かけるのがだんだんおっくうになっている人が増えているが、できる限り外出の機会をもつ様、働きかけている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でこづかい程度の金銭管理をされている方もおられ、通院や買い物などに行ったときは、自分で支払いすることを支援している。また金銭管理が無理な状態の方でも、ご本人の希望で家族と相談の上数千円程度のお金を待っておられる方もいます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族が遠くに居られ、面会にはこられないが、電話を定期的にかけてきてくださる家族とは電話に出て頂き直接お話いただく。年賀状は希望者に出して頂く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天候や季節・時間に応じて、日差しや照明・温度の調節をしている。又、共有空間には季節の花やその月のちぎり絵を飾ったりしながら、居心地の良い空間となるよう努めている。	リビング・レクリエーションルーム・一段高い畳の間と居場所も多く、長い廊下を往復しての歩行訓練は毎日の日課になっている。天井には今年の干支・龍の共同作品を飾り、あちこちのホームの壁にはちぎり絵・書・塗り紙作品を掲げ、美術館のようで楽しい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の座席は、入居者の状態に応じて席替えを行い居心地よく過ごせるように配慮している。 又、和室やホールのスペースを活用し、ご本人が好きな場所で過ごせるように環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品々や家具、寝具、写真等を持ち込んで頂けるようお願いしている。本人と相談しながら居心地のよい部屋となるよう努めている。	「これ皆、わしが描いた。この人におだてられてここへ来て初めて絵を始めた。」壁には所狭しと塗り絵作品が飾られ、まるでアトリエの様な人や、「ここから野菜もよう見える」掃き出し窓から畑に出て土いじりを楽しむ人もいて、それぞれの趣味を満喫した生活ができていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレが分かるよう、名前や造花で目印を掲示したり、通路や居間等ご利用者の移動スペースには障害物を置かないよう配慮し、能力に応じて可能な限り安全で自立した生活が出来るよう取り組んでいる。 **平成22年度自己評価及び目標達成計画はないため、目標達成計画は破棄する**		